

# 協議会ニュース 100号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2005. 5



『モンゴリナラとナナフシモドキ』

## ●特集 総会報告

総会の概要	齋竹 善行	.....P2~4
質問&回答	佐藤 国彦	
・支部だより 知多支部	牧野 靖子	.....P5
西三河支部	三田 孝	
・講演会レポート	齋竹 善行	.....P6~7
「里やま保全と子どもの自然体験」をきいて		
・観察会あれこれ	牧野 紀子	.....P8
・協議会だより		.....P9
・理事会だより		.....P10
・事務局だより		.....P11
・編集部だより・行事予定 他		.....P12

## 平成17年度総会の概要

日 時 平成17年3月21日 13:00-14:35

場 所 あいちNPO交流プラザ

参加者 会員56人

### 議 事

#### 1 開 会

司会進行役の堀田理事の開会に続き、昨年度の役員・理事が紹介されました。

#### 2 あいさつ (会長)

愛知万博の開催に関連して多くのインタプリターが養成されたので、その方たちの終了後の行動に注目しています。協議会はインタプリターの集団としてこれまで寄与してきました。協議会のことを大切に思う会員が増えれば会が発展するので、ご協力をお願いします。



#### 3 議長等選出

議長に松尾副会長を、記録係に滝田理事を選出しました。

#### 4 議案説明及び質疑

##### (第1号議案)

近藤事務局長から平成16年度の事業報告がなされました。

##### (第2号議案)

石田会計担当理事から平成16年度決算報告があり、南川監事から会計処理は適正に執行されていた旨の報告がありました。

会計報告に関連し、傷害保険の保険料として協議会が支払った金額と参加者から徴収して協議会の収入として計上された金額との差について質問と、毎年協議会が10万円を超える負担をするのはおかしいとの意見が出されました。これに対し、保険料は1人につき50円であるが、参加者からは40円を徴収しているものの、保険の最小参加者数が1日につき20人とされており、参加者がそれより少ないと20名分の保険料を支払わねばならないが、参加者からの徴収は参加人数分だけであること、また、保険期間は4月から翌年3月末までで契約しているのに対し、協議会の会計年度は2月に始まり翌年1月末までとなっており、会計年度のずれがあることから、差がでるとの回答がありました。なお、保険料の内訳について、協議会ニュースに掲載して、会員にお知らせすることとなりました。(参照 P4)

また、協議会が持っている図書などの資産も決算で報告すべきではないかとの意見に対し、売却による収入などがなく決算書には載せていないが、協議会ニュースに掲載するので、皆さんで図書を購入してほしいとの説明がなされました。(参照 P11)

##### (第3号議案)

近藤事務局長から17年度の事業計画案の説明がありました。

また、観察会にかかる傷害保険に関し、スタンプラリーの保険料は参加者から徴収すべきである、すべての観察会を保険対象とすべきであるとの意見が出されたのに対し、事故が実際に起きた場合、協議会が賠償責任を負う可能性があり、協議会主催のものは自ら保険料を負担していること、保険加入については観察会によって事情が異なることから一律に扱うことは困難であるが、この問題については各支部の理事を通じて意見を出してもらって理事会で検討していきたいとの回答がありました。

#### (第4号議案)

石田会計担当理事から17年度予算案の説明がありました。

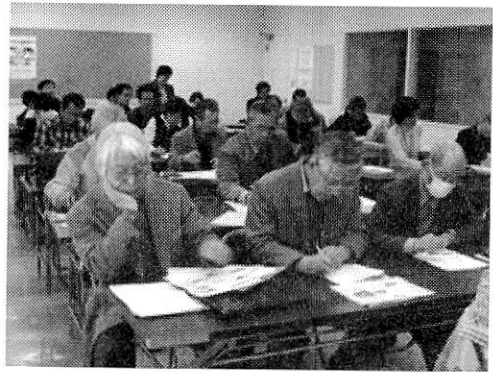
予算案に関連して、次のような質疑、意見表明がありました。

協議会を紹介するリーフレットの作成について質問があり、今年度、作成予定との回答がありました。

NACS-Jなどの会費を合わせると1万円以上の負担となっており、協議会費の3千円は高すぎるとの意見があり、17年度は25周年事業を予定しており、この予算となったが、今後理事会で検討していきたいとの説明がありました。

スタンプラリーについて、開催目的、チラシ作成などに関する質問があり、目的は一般市民の参加のみならず指導員にも参加してもらい交流を深めること、チラシは協議会で作成するが印刷・配布は支部にお願いしたいとの回答がなされました。

昨年総会で改正された規約は配布



しないのか、また、会員はいずれかの支部に所属することになっているが守られているかとの質問があり、規約については協議会ニュースに総会での修正部分を掲載したが、今後、別刷りを検討したい、支部所属問題については、引き続き努力していきたいとの回答がなされました。

各支部の総会に協議会の会長なり副会長が出席すべきではないかとの質問があり、日ごろから考えていたことで、できるだけ参加したいとの回答がなされました。

#### 5 採 決

第1号議案から第4号議案まで承認されました。

#### 6 あいさつ (会長)

平成17年に予定されているスタンプラリーや各種研修会、新指導員の講習会などにご参加いただき、協議会を盛り上げてくださるようお願いいたします。

#### 7 閉 会

(総会報告：齋竹)

◆17 年度総会の質問に以下の通り回答します。

1. 保険関係の収支について

平成 15 年度及び 16 年度の保険の収支は、以下の通りでした。(総会で報告した数字は、見落としがあったため、誤っていましたので、お詫びして以下のように訂正します)

平成 15 年度観察会

- ・ 観察会実績      全体実績    260 回 3,432 人  
                         助成分      254 回 3,273 人 (平均 12.9 人)
- ・ 支出 (保険料)    352,550 円 (対象人数    7,051 人)
- ・ 収入 (負担金)    130,920 円(15 年収入 : 53,240 円    16 年度収入 : 77,680 円)
- ・ 協議会負担分    221,630 円

平成 16 年度観察会

- ・ 観察会実績      全体実績    298 回 3,900 人  
                         助成分      292 回 3,820 人 (平均 13.1 人)
- ・ 支出 (保険料)    253,200 円 (対象人数    5,064 人)
- ・ 収入 (負担金)    152,800 円(16 年収入 : 11,360 円    17 年度収入予定 : 141,440 円)
- ・ 協議会負担分    100,400 円

協議会が負担する保険料は、本来協議会主催観察会 (ふるさと親子自然観察会) と定例観察会の助成のはずですが、保険は最低参加者数がありこれに満たない場合は、一定保険料を納めるため協議会負担が大きくなっています。最低参加者数は 15 年度までは 50 人、16 年度以降は 20 人に改正されました。

それによって 15 年度は協議会負担が大きく約 22 万円でしたが、16 年以降は 10 万円程度の見込みです。

2. 保険関係の収支を協議会の会計年度に合わせることはできないか

保険料は、保険期間の前に納める必要があり、精算金である負担金は保険期間終了後に各観察会から入るため、会計期間内の処理は困難です。保険期間は、会全体の計画・実施状況から 4 月～翌 3 月とすることが運営しやすいように思います。

3. 保険料は誰が負担するのか

傾向としては、参加者から保険料 50 円を徴収している観察会が多くなっています。しかし、定例観察会は設立や運営にさまざまな経緯があり、強制できないのが実態です。また、私としては、統一にこだわるより負担者がやりやすい形で参加者にも納得してもらいやすい内容で進めたいと思います。また、保険は事故があった場合の主催者の責任軽減の意味もあり参加者だけが負担すべきものではないという意見もあるため、一部協議会が負担することも必要に思われます。(16 年度の実績では参加者 1 人あたりの保険料は 67 円程度で、参加者が 50 円払っても、会が 17 円程度負担していることになります。) 尚、協議会主催の観察会では、事故があったときの会の責任を問われる可能性があるため、会の姿勢を示すためにも協議会の負担でよいと考えます。

(保険担当 : 佐藤国彦)



## 知多支部（知多自然観察会）総会報告

報告：牧野靖子

平成17年度の知多支部の総会が2月20日（日）AM9：30から阿久比町エスペランス丸山にて出席者43名で開催されました。司会進行は山田（和）さんで、代表挨拶、活動報告、会計報告、新役員・各担当選出、平成17年度活動計画などの議題について報告や検討をしました。

降幡代表の挨拶に始まり、活動報告では支部関係の行事として、春・秋の研修旅行、持ち寄り会・パソコン研修、各市町のミニ観察会、受託関係の観察会やお手伝いについて各担当者より発表しました。会計報告は、会計担当、畠さんより行い、会計報告書と領収書の回覧による内容確認が行われ承認されました。新役員代表は、次のとおりです。

顧問：加藤寿芽、原穰

代表：降幡光宏

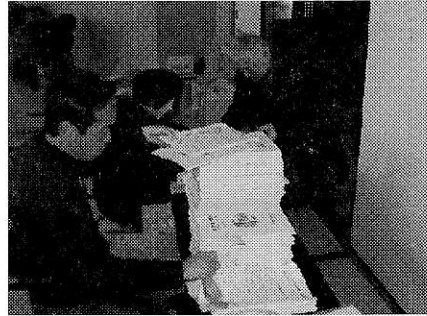
副代表：①庶務：南川陸夫

②行事：岩崎光明③広報：

榊原靖④会計：牧野靖子

各市町連絡会正副代表、ホームペー

ジ作成、メーリングリスト管理、県協議会関係などの担当選出も合わせて行いました。



総会受付の状況

本年度支部行事活動計画では「全国里山大会」などの大型企画を中心に内容確認と指導員の参加促進も併せて行いました。その他、間近に迫った「こどもエコクラブ」（3月26日開催）の打ち合わせ、観察会運営上の注意、ホームページの管理運営などを確認し、より満足の行く充実した活動となるよう情報・意識の統一を行いました。

## 西三河支部（西三河自然観察会）総会報告

報告：三田 孝

平成17年度西三河支部の総会は2月20日午後2時から4時30分まで岡崎の竜美ヶ丘会館にて18名の参加者を得て開催されました。

会長挨拶の後、平成16年度事業報告がされました。予定された企画はほぼ実施することができましたが、一般参加者が少なく、さらなる広報の必要性が指摘されました。次に会計報告が承認されました。会費未納者への会費納入の督促をしながら会員名簿の整理をしたところ、会員数を減らしながらも、実質的には会費納入額を増加することができました。

平成17年度の事業計画では支部主催観察会として「おかざき自然体験の森」以外にも「西尾いきものふれあいの里」「岡崎中央総合公園自然観察の里」など、新観察地でのものが承認されました。

従来の地域での定例観察会も継続されます。会員研修として一色千間、北山湿地、佐久島（1泊）が企画されます。観察会の有料化（保険料＋資料代）について議論されましたが、地域の観察会については、担当者の判断に任せるものの、支部主催のものは有料化する方向が確認されました。

平成17年度の支部役員は次のように承認されました。

会 長：三田孝

副会長：原田勉、宮原英明

事務局、会計：深見弘

広 報：吉田彰(HP)、苅川真弓(会報)

監 査：山原勇雄

幹 事：伊東清、奥居達朗、近藤守、

山下眞志

すべての議事終了後、伴幸成さんに「アミメカゲロウのパッチ状羽化について」の講演をしていただきました。

## 講演会「里やま保全と子どもの自然体験」をきいて

尾張支部 齋竹善行

総会終了後、千葉県立中央博物館の中村俊彦先生を講師にお迎えして、「里やま保全と子どもの自然体験」というテーマで講演会が開かれました。

先生が「里やま」と関わるようになったのは、万博問題でこちら愛知県の「海上の森」を訪れてからということで、比較的新しいことだそうです。先生が「里やま自然誌―谷津田からみた人・自然・文化のエコロジー」という本を出されています。

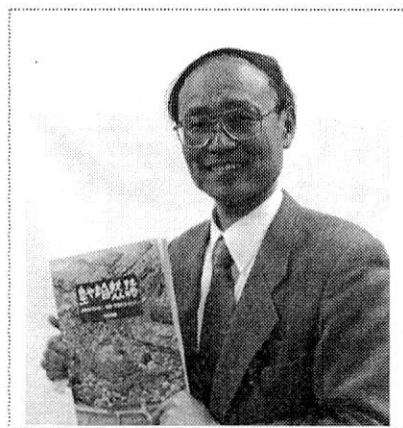
講演では、最初に日本人と自然のかかわりについて話され、その後、「里やま」の定義、「里やま」の現状、自然体験のたいせつさ、さらには里やまなどの身近な自然の保全のための取組などが紹介されました。

ご自身も、千葉で日本では絶滅してしまったトキが舞う里やまをめざして、地元、都市の市民、学識者と行政のパートナーシップで自然環境の保全に取り組んでおられるとのこと。

パワーポイントで作成されたビジュアルな資料を交えた話は、たいへんわかりやすいものでしたが、まさか私が協議会ニュースの原稿作成をするはめになろうとは思ってもみず、詳細なメモを取らなかったため、いただいた資料をもとに、今後、参考になりそうなことを講演会の話の思い出しながら、いくつか紹介したいと思います。

## 1 日本の誇りに思うこと

平成14年の調査では「美しい自然」が37%で第1位です。昭和57年の調査では「国民



著書を手にて会場にて

講師 中村俊彦氏

の勤勉さ・才能」が33%を占め第1位で、この時、「美しい自然」は27%で3位でした。

また、平成16年の首都圏白書では、住まいを選ぶ時に重視した生活環境項目として、「自然環境の良さ」をあげた人が90%でトップとなっています。

国民にとって、自然はたいへん関心が高いものということでしょう。

## 2 「里やま」の定義

「里山」を辞書で調べると

- ①生活と結びついた山・森林
- ②人里近くの森林
- ③原風景・身近な自然

⑤都市と山間部の中間域の二次的自然  
 というような解説がされていますが、①②を「里山林」、③④を「里やま」と定義。

「里やま」は里山林のほか里池（田畑と集落）や里（集落）も含めた概念。

山だけでなく海についても海岸近くの里と一緒に「里うみ」といったものが考えられます。

### 3 雑木林の再生

日本では雑木林を伐採しても、再生が早く、萌芽更新で半年ほどたつと1メートル以上の木が育っている。こうした里山の林を管理することで、木材、燃料などの主産物に加え、植生の遷移のプロセスでキノコ、山菜、薬草など様々なものが得られますが、管理をしないとこうしたものが採れなくなってしまいます。

### 4 「文化」と「文明」

「文化」はカルチャー（耕す）から来ており、人間が自然と調和・共存するものであるのに対し、「文明」は自然から離脱しようとして人間がつくりだしたもので、都市がその代表的なものです。

千葉市周辺の大正時代からの土地利用の変遷を見ると、水田は経る一方で市街地の拡大が著しく、文明によって自然が追いやられている状態が続いています。最近では、「文化」や「環境」をうたい文句にした開発やごみの不法投棄、建設残土の埋立などで、里やまの環境・文化が破壊される事例も目立っています。

### 5 里やまは循環型社会

かつての里やま・里うみの農漁村生態系は、その地でとれたものを消費し、生ごみなども肥料としてその土地に戻す循環型でしたが、現在の都市生態系は、よそから食料やエネルギーを持ち込み、不要となったものはよそに運び出すという一方的な流れとなっています。

### 6 子どもたちの遊びと自然

小学生が遊びたい場所としてあげるところは、「海」や「森・林」が多いが、実際に遊んでいる場所は、「家の中」とかせいぜい「公園」ということで、なかなか近くに遊べる自然というのは少ないようです。

そうした中で、調査によると、自然体験が多いほど、道徳観・正義感が強いという結果が出ています。これは、人間にとって自然体験が非常に重要であることを意味しているものと考えられます。

人の脳の発達状況を見ると、前頭葉のシナプス数密度は、1歳から10歳くらいまでが最大で、この頃の自然体験が生きる力にもつながっていると考えられ、こうした年頃の子どもが自然観察に参加することはすばらしい。

### 7 里やまをささえる協力体制

今や農村だけでは里やまを維持していくことは難しく、都市と農村との支え合いが必要となっています。農家、都市市民、専門家それに行政の4者のパートナーシップが望まれます。

千葉では「谷津田フォーラム in 丸山」でそうした試みがなされています。都市市民が地元の人といっしょに土地の魅力を調べて意見を交換し、優れた場所、問題な場所を地図上に表示して地域の将来を語り合い、すばらしい計画ができています。こうした取組で、トキが舞う里やま、里うみの再生を目指しています。

なお、今年、トキと同様に日本では絶滅してしまった野生のコウノトリがここの里やまに飛来したとのことです。

## 嗅覚で識ること

東三河支部 牧野 紀子

自然観察会では、指導員の解説から得られる知識ばかりではなく、参加者が自身の五感をフルに活用することで生き物の息吹を識る機会を持つことができることも有意義な要素ですね。嗅覚はその一つ。観察会でニオイタチツボスミレの花は香るかどうかがヤブニッケイの葉を少しちぎって、その爽やかな香りを確かめるなどなど。皆様の中で心に残る自然界の香り、臭いにはどんなものがあるでしょう？

私は、畑の雑草となっている帰化植物、オオツメクサの花が、思いの外とても良い香りであることに気が付いて驚いたことがあります。見るだけ、通りすがりだけではその生き物の本当の姿にはなかなか触れられないのかもしれないかもしれません。是非、見て、触れて、嗅いでみましょう。

春がそろそろ本格化する季節に、山や林を歩くとヒサカキが小さな花を沢山付けており、その香り＝臭いと言った方が良いでしょう？が周囲に漂い始めます。自然観察指導員 ML にこの花の開花情報と臭いについて投稿しましたら、他の指導員の方々からこの独特の臭いについて様々な反応を頂くことができました。私は最初嗅いだときは、食堂のラーメンの臭いを連想してしまいましたが。他の方はどんなイメージを持たれていることでしょうか？



ヒサカキの花

自宅のある豊橋市植田町周囲でも、ヒサカキが林の中に多数生息しているので、3月後半になると「あの」臭いでその花が咲き出したことがわかります。以前は自宅から1歩庭先に出たそばから、風に乗ってヒサカキの花の臭いが漂ってきたものです・・・。春の訪れを知らせる自然の便りがこの臭いとは。知人に話すと大笑いしてしまったとのことでした。

しかし数年前に自宅付近の道路開通に伴い、周囲の林も伐採されることとなってしまってから、この春の風物詩も、にぎやかに鳴いていたキジの声と共にぼったりと途絶えることとなってしまいました。何か大切なものが失われてしまった、人間の持つ、生きているための感覚を確かめる術が無くなってしまった、そんな思い・・・。失われたことで初めてその存在価値に気が付かされた出来事でした。以後、この花の香りに会うと何だか愛おしく思うようになってしまったこの頃です。



自然観察会スタンプラリー（期間 5 月～10 月） 主催：愛知県自然観察指導員連絡協議会  
後援：愛知県 愛知県教育委員会

日時	場所	集合場所	問合せ先	テーマ	その他
5 月 8 日(日) 9:30～12:00	常滑市 鬼崎蒲池漁港	名鉄蒲池駅 9:15	山 田 和 男 0569-22-4660	海岸の生き物の 生活を観察しよう	バケツ、タモ持参、 サンダル禁止
5 月 14 日(土) 9:00～12:00	刈谷市 小堤西池	洲原公園 第二駐車場	深 見 弘 0565-28-4958	カキツバタを 観察しよう	
5 月 28 日(土) 9:30～14:00	犬山市善師野	名鉄広見線 善師野駅前	平 井 直 人 0567-23-1505	里山を 観察しよう	
6 月 5 日(日) 9:30～12:00	宝飯郡小坂井 町「トンボ公園」	うたり神社	星 野 芳 彦 0562-93-4927	トンボと社寺林	
6 月 11 日(土) 9:00～12:00	瀬戸市 定光寺町	定光寺参道階段 上り口前駐車場	大 谷 敏 和 0572-23-6907	水辺の生き物	JR 中央線定光寺 駅徒歩約 1km
7 月 16 日(土) 9:00～13:00	鳳来町千枚田	千枚田看板前	小 山 舜 二 0536-35-0742	千枚田を見よう	交通：豊橋鉄道バ ス停滝ノ上
7 月 17 日(日) 9:30～12:00	東山公園	東山植物園正 門横広場	滝 田 久 憲 052-782-2663	湿地の自然	エコバルふるさと 親子と協賛
7 月 24 日(日) 13:00-15:00	美浜町 富具崎港	名鉄野間駅 12:30	森 田 博 文 0569-87-0725	海辺の生き物を 観察しよう	タモ、バケツ持参、 サンダル禁止
8 月 21 日(日) 9:30～12:00	南知多ビーチラ ンド山王川南P	名鉄知多奥田 駅 9:00	森 田 博 文 0569-87-0725	山王川河口の貝 やカニさん観察	テカギ、バケツ持 参。サンダル禁止
10 月 1 日(土) 9:30～12:00	猪高緑地	名東生涯学習 センター前	堀 田 守 090-1279-5292	里やまの自然	

- 趣旨：愛知県各地の、いろいろな自然を知ることが根底にあり、一般の方に、愛知県自然観察指導員連絡協議会の、自然観察会に参加してもらい、観察会の楽しさ・良さを知ってもらい、自然観察指導員には、多様な他支部の観察会に参加、他支部と交流する機会等を設けます。
- 賞（同じ支部でも他支部でも 1 スタンプとして数えます）：一般の方は、2005 年の愛知県自然観察指導員連絡協議会 25 周年記念事業（11 月 23 日午後名古屋市内予定）の講演会で自然観察グッズをプレゼント、自然観察指導員は、最優秀賞（10 スタンプ）、9 スタンプ優秀賞、8 スタンプ優秀賞、7 スタンプ優秀賞などスタンプの数に応じて、25 周年記念の講演会で自然観察グッズをプレゼントします。詳しくは、観察会担当者まで。
- 詳しい情報は各支部の Web ページで  
東三河自然観察会 <http://www5c.biglobe.ne.jp/~kajino/>  
西三河自然観察会 <http://www.mita.2y.net/nature/nishimikawa/index.html>  
知多自然観察会 <http://www.japan-net.ne.jp/~chita-k/>  
名古屋支部 [http://cecile.gr.jp/nagoya\\_sizen/index.htm](http://cecile.gr.jp/nagoya_sizen/index.htm)  
尾張支部（尾張自然観察会）<http://www006.upp.so-net.ne.jp/symbio21/>
- スタンプ台帳

①日付	②日付	③日付	④日付	⑤日付
場所	場所	場所	場所	場所
⑥日付	⑦日付	⑧日付	⑨日付	⑩日付
場所	場所	場所	場所	場所

## ■ 理事会報告

2005/4/10（日） 14:00

於 名古屋市教育館 和室

出席者

中西正 松尾初 大谷敏和 近藤記巳子 齋竹善行  
佐藤国彦 巾賢二 堀田守 山田博一 吉川洋行  
滝田久憲 降幡光宏 三田孝 村上和彦

議長：中西正

記録：近藤記巳子



### ◆議題

0. 支部長の理事の欠席の場合は、極力代理を立てるようお願いしたい。

1. 理事会開催スケジュール  
(行事予定と照らし合わせ)

・年6～7回開催予定

2. 17年度役割分担の確認及び25周年記念事業について

・前年度に引き続き同一の役割分担

会計：石田晴子

普及：井城雅夫

研修：大谷敏和

事務局：近藤記巳子

名簿管理：齋竹善行

保険：佐藤国彦

広報：巾賢二

機関紙：苅川真弓

企画・調査：堀田守

視察会：山田博一

保全：吉川洋行

会計監査：南川陸夫

脇田孝仁

各支部長

名古屋：滝田久憲

尾張支部：山田博一

知多：降幡光宏

東三河：梶野保光

西三河：三田孝

奥三河：村上和彦

・リーフレット・HP作成などによってさまざまな情報発信を行う。

・(仮) 記念事業委員を、次回理事会までに候補者を選出（できれば次回出席要請）

・スタンプラリーは、4/17までにA4サイズにまとめ、広報用に配布可能とする。

3. リスク管理・保険について

・リスク管理について、「協議会ニュース」に指導員各自が速やかな対応ができるようなマニュアルを掲載を予定。

・保険については各視察会で独自に加入するなど、さまざまな事情・考えがあるので協議会として一律にするのは、困難ではないか。

4. 発行物について

・「ブナ科調査報告」は、できるだけ手渡しをしていく。

・調査に関わった指導員へ数部配布予定。

・発送に当たっては、「海辺の自然」の発行時期との調整も検討。

5. 愛知県からの受託事業

「海上の森」ハンドブック作成

・尾張支部で10人程度の執筆者に依頼

6. その他

・オールアイシシ NPO 活動応援基金助成成らず。

## ■ 環境指標生物調査にご協力を

### ～ 陸貝・ダンゴムシ ～

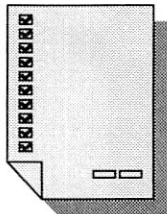
本年 17 年、協議会では環境指標生物の状況把握と指導員の研修を兼ねて、陸貝及びダンゴムシの調査を実施します。定例観察会あるいは個人的に身近な場所での調査、いずれも歓迎します。

#### 1. 対象種 陸貝・ダンゴムシ

#### 2. 趣旨

陸貝は我々指導員の苦手な分野でありその分布状況もはっきりしていないと思われるため、身近な場所における概要を調査する。

ダンゴムシについては、近年在来種が非常に減っていると思われるため、その生息状況を把握する。



#### 3. 実施方法

定例観察会・受託観察会において、参加者の協力を得て陸貝集め・ダンゴムシ集めを行う。陸貝は採取して種類名を調べる。ダンゴムシは主に林の中で在来種（グロコシピロダンゴムシ）・帰化種（オカダンゴムシ）などの個体数を調査する。実施期間は 5～10 月。各観察会で適宜 1 回程度。

#### 4. 報告事項

##### ①陸貝

調査日・採取場所・環境（マツ林・コナラ林・草原・境内など）・陸貝の種類と数・採取者名

##### ②ダンゴムシ

調査日・採取場所・環境（マツ林・コナラ林・草原・境内など）・在来種・帰化種の各個体数・採取者名

##### ③発表

全体の結果をまとめ、機関紙にて発表

※尚、陸貝の不明なものについては、同定依頼をしますので、標本を提出ください。まとめて依頼をしますので、結果については遅くなることを了承ください。詳細は、5 月 29 日(日)の講習会場にて説明します。

##### ④〆切日及び報告先

- ・ 本年 10 月 20 日〆切り
- ・ 佐藤国彦まで

## ■ 図書の在庫案内：総会の質問回答

有償配布図書在庫一覧  
（平成 17 年 4 月 1 日現在）

冊子名	単価 (円)	残 数
愛知県の両生類・は虫類	1,400	16
レッドデータブックあいち植物編	1,800	16
レッドデータブックあいち動物編	1,500	11

◆購入希望者は、事務局まで問い合わせください。

## ■ 新会員 紹介します

石原則義（名古屋支部）

〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7-3

(052) 711-0387

鈴木温子（尾張支部）

〒492-8284 稲沢市天池西町 60-1

(0587)21-6663

長瀬好文（尾張支部）

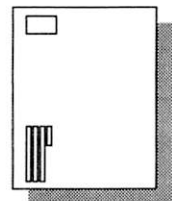
〒484-0073 犬山市天神町 4-46

(0568)62-0792

## ■注意！メール便は

転送サービスがないため

連絡先などの変更は早めに



最近、メール便が何通か戻ってきます。そのたびに発送担当者が電話をかけたり、事務局が支部へ問い合わせたり、あたふた対応しています。

「協議会ニュース」発送は、現在宅配会社のメール便を利用しています。メール便は、転居先への転送サービスがありませんので、転居・婚姻などによる住所・氏名・電話などの変更は、速やかに連絡ください。

メール便は、送料が郵便と比較して安価であること、また会報を早く届けることができるという 2 点で、大きなメリットがあります。

限られた資金で運営・活動していく上では、メール便の活用を今後も継続予定です。

みなさんの協力を、よろしくお願いします。

以上、事務局：近藤

## 研修案内

カタツムリに代表される陸貝は愛知県内でおおよそ 150 種近くの種類が報告されています。これらの生態は移動能力が小さいことや環境に対する抵抗力が弱いことから、限られた分布範囲でのみ見られることや環境評価の指標にもなります。このカタツムリについて、一緒に学んでみませんか。

日 時：5月29日(日)午後2時～

場 所：名古屋市教育館 第7研修室

(地下鉄「栄」下車 10B 出口より徒歩3分

名古屋市中区錦三丁目16番6号

052-961-2541)

講 師：中根吉夫氏(三河生物同好会幹事)

テーマ：陸貝の生態と分類

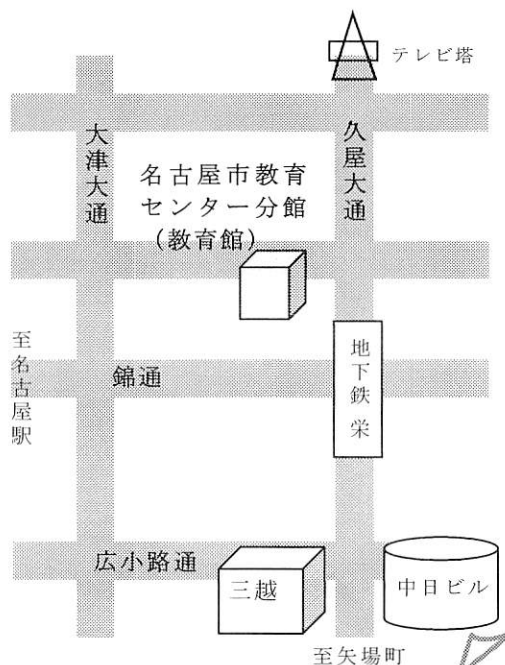
主 旨：協議会が計画している陸貝の調査や、自然観察会の指導の参考とするため、陸貝の生活の様子および身近な陸貝の分類方法について研修を行います。

●申込み方法：支部ごとに取りまとめ、

研修担当：大谷まで申込みください。

E-mail: [kokokey@nifty.com](mailto:kokokey@nifty.com)

TEL: (0572) 23-6907



### 編集後記

ない知恵を絞って、協議会ニュースの原稿を書いていると、何かと気ぜわしく時間が過ぎてゆきます。気分転換に、フィールドへ出てみると、いつの間にやら桜の時期は過ぎ、野にはさまざまな野草が咲き乱れ、野鳥がさえずり、春爛漫といった趣です。

これから、生き物の活動が盛んになり、自然観察がますます楽しくなる季節。新緑の風の中でストレスを発散させましょう。でも、せっかく観察に出向くなら、自分で何かテーマを決めて取り組みたいですね。(齋竹)

### 編集スタッフ

稻生 和久、岩沙 雅代、近藤 記巳子、齋竹 善行、古川 俊江、荇川 真弓、松尾 初、横井 邦子

表紙 モンゴリナラ&ナフシトビ(絵) 岩沙 雅代

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄せください。

尚、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承ください。

協議会ニュース編集部

〒445-0863

西尾市葵町4-4

荇川 真弓

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子

Tel/Fax 052-822-7460